拝啓 国交省・蒲島知事どの

熊本にダムはいりません！

川辺川ダム・瀬戸石ダム・立野ダム
では命も清流も守れません。

昨年７月の球磨川流域での豪雨災害発生を受け、蒲島郁夫知事は川辺川ダム建設容認方針に舵を切り、「緑の流域治水」なるものを提唱しています。しかし、被災者の多くが望んでいるのは土砂撤去や河道掘削、山林の保全であって、ダムではありません。

昨年１１月のパレードの様子

熊本にダムはいりません。どんなダムでも清流を破壊し、緊急放流によって下流を危険にさらします。ダムでは命も清流も守ることは出来ません。球磨川中流域の瀬戸石ダム、白川に建設されようとしている立野ダムも同様です。流域住民、県民一丸となってダムはいらないという声を上げ、国交省や蒲島知事の動きを正していきましょう！

日時：2021年１１月２１日（日）１４時　**＊小雨決行**

場所：熊本市・辛島公園（市電辛島町電停下車）

内容： ダムは危険・環境破壊、被災者はダムを望まない、県内の無駄なダム

発言：中島熙八郎熊本県立大学名誉教授ほか

主催・問合せ：熊本にダムはいりません！実行委員会　080-3999-9928 土森

＊集会の後、市内をパレードします。思いを込めたプラカード持参や仮装等であわせてご参加ください。パレードの後、仮装コンテストを行います。

＊熊本市が策定するコロナ感染防止策チェックリストに基づく対策を実施します。マスクの着用をお願いします。

集会宣言文

昨年７月の豪雨は、球磨川流域に甚大な被害をもたらしました。行政側は、水害被災者への聞き取りやまともな原因調査を行うことなく、また被災者を始めとする流域住民の声を聞くことなく、流水（穴あき）型の川辺川ダム建設を含む「流域治水」を推進しようとしています。

流水型ダムであっても、清流日本一の川辺川に大きな環境破壊を及ぼし、鮎、球磨川下りをはじめ地域の観光など流域の産業に大きな悪影響がもたらされます。また、これまで市房ダムで行われてきたような緊急放流の危険性も否定できず、その規模は３倍を優に超えるものになります。

瀬戸石ダムが今回引き起こした水害は犠牲者も含む甚大なものでした。ダムの上下流で全く同じ水位になるなど、水害当日あってはならない異常な現象が発生し、ダム下流では放流により、建造物を跡形もなく流し去りました。ダムの危険性が現実のものとなったのです。にもかかわらず、ダムの管理運営者たる電源開発株式会社（電源開発）や電源開発を指導する立場にある国土交通省は被災者に対して謝罪の言葉さえありません。

県内では、阿蘇で立野ダムの建設が進んでいますが、立野ダムが完成すると阿蘇や白川の環境を破壊してしまいます。熊本市内でわずか数十センチの効果しかない立野ダムよりも、他の方策で洪水を防ぐことは可能です。

ダムによる治水は、清流を壊し、ダムの上下流を危険な状態にさらします。そこにひっ迫している県財政からの支出など認める訳にはいきません。ダム建設に使うお金があるなら、被災者が求める流域の復旧復興や県民の暮らしの向上のために使うべきです。

県内には他にも問題を抱えたダムが沢山あります。ダムが出来たら、簡単には撤去出来ませません。幾世代にも亘って禍根や災厄をもたらすことになります。そんなダムを残す訳にはいかないのです。熊本にダムはいりません。

私たちは、ダムに固執する国土交通省や蒲島郁夫県知事に対して、「川辺川ダム・立野ダムでは命も清流も守れません」「危険な瀬戸石ダムは撤去して下さい」「清流球磨川・川辺川、そして白川はみんなの宝！」という声を上げ続け、川辺川ダム・立野ダム建設中止、瀬戸石ダム撤去を実現し、清流を守り抜くことをここに宣言します。

2021 年 11 月 21 日「拝啓国交省・蒲島知事どの　熊本にダムはいりません！
川辺川ダム・瀬戸石ダム・立野ダムでは命も清流も守れません」参加者一同

2021 年 11 月 21 日　辛島公園

拝啓　国交省・蒲島知事どの

熊本にダムはいりません！

川辺川ダム・瀬戸石ダム・立野ダム
では命も清流も守れません。

プログラム

開会挨拶／　中島 康（子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会
阿蘇：立野ダムによらない自然と生活を守る会）

ダムの問題点／　中島 熙八郎さん（熊本県立大学名誉教授）

現地からの発言／　鳥飼 香代子さん（７・４球磨川流域豪雨被災者・賛同者の会）
本田 進さん（坂本町被災者・支援者の会）
田副 雄一さん（相良村・鮎漁師）

各ダムの問題点

川辺川ダム／　南　由穂美さん

瀬戸石ダム／　坂本 登さん（芦北町議会議員）

立野ダム／　福田 芙美子さん（白川の安全と立野ダムを考える流域住民連絡会）

天君ダム／　須藤　光夫さん

県議会から／　西 聖一さん（熊本県議会議員。ダムによらない治水利水を
考える県議の会）

*長崎もダムはいりません/*炭谷 猛さん（川棚町議会議員。石木ダム建設に反対する
川棚町民の会）

集会宣言文提案

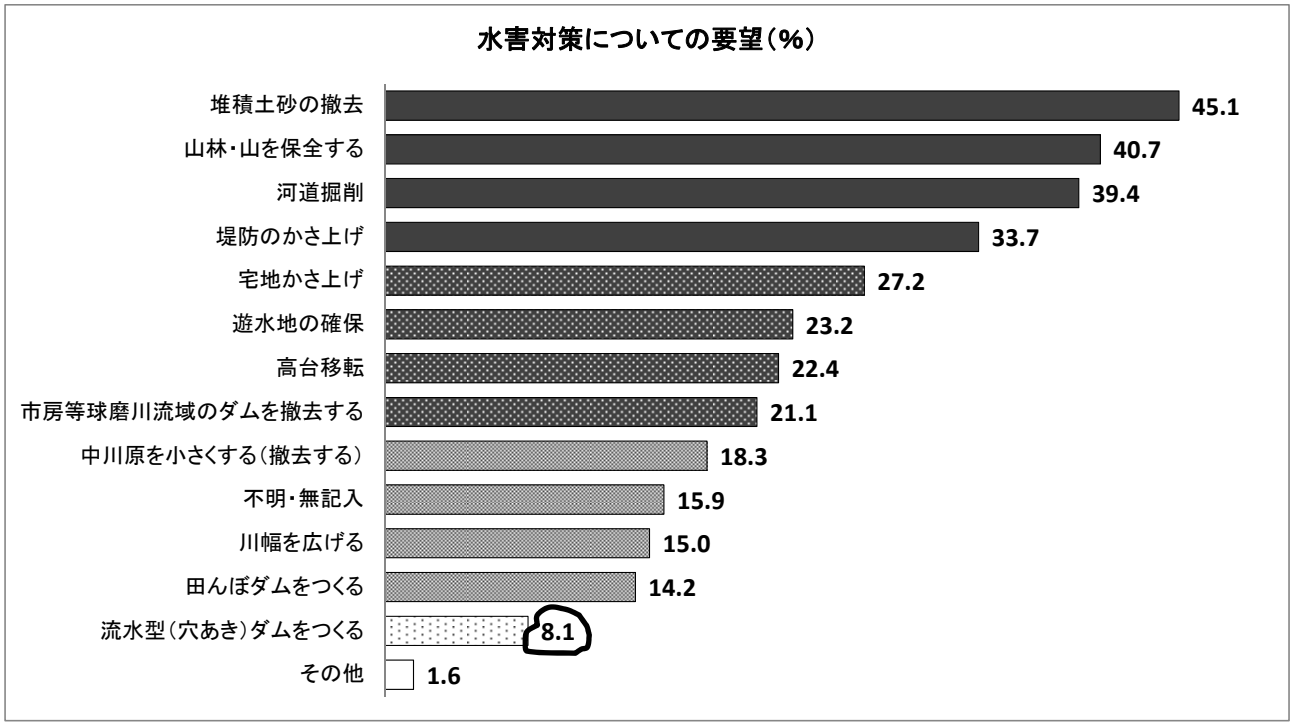
シュプレヒコール

＊集会宣言文を採択していただきましたら、１１月２４日（水）１１時半、県庁 1302 会議室で熊本県に提出します（11 時 15 分、県庁本館ロビー集合）。こちらにもご参加をお願いします。

熊本にダムはいりません　　中島熙八郎（京大工博）

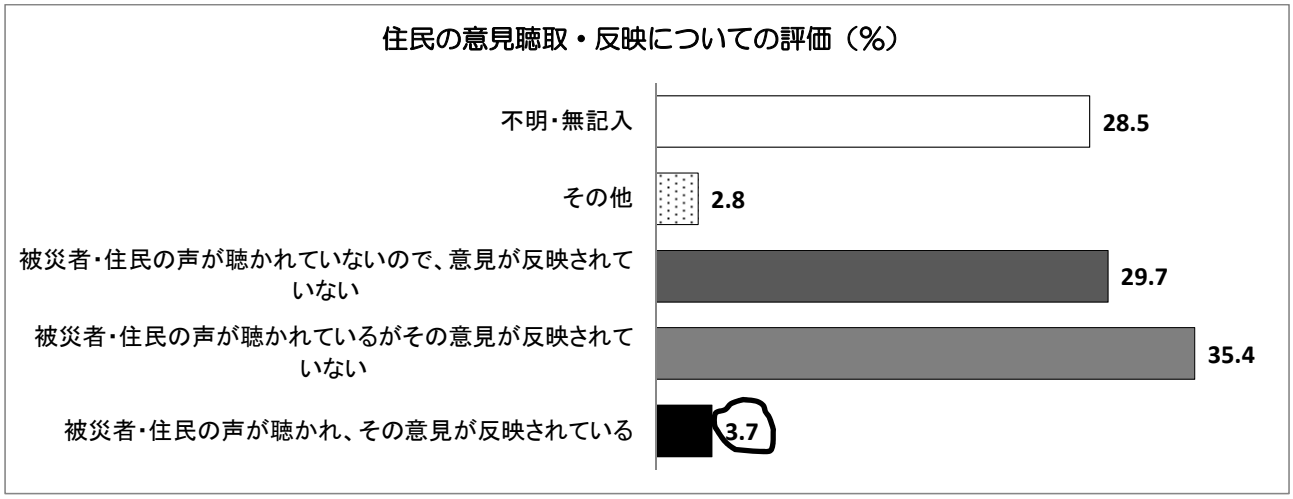
1.７・４球磨川水系豪雨災害被災者のほとんどは川辺川ダムを望んでいない！

2021 年８月に行った被災者アンケート調査（回答者数 246 人）の結果では、「流水型ダムをつくる」という要望は全 11 項目（その他、不明・無記入を除く）中の**最下位でわずか 8.1%（246 人中の 20 人）。「ダム撤去」の要望はその 2.6 倍の 21.1%（52 人）。**「堆積土砂の撤去」、「山林・山の保全」、「河床掘削」、「堤防のかさ上げ」が１位～4 位を占める。それらは、従来からダムなし治水を求めてきた流域住民・県民の主張と重なるもの。



2. 行政は被災者・住民の声を聴いても、聴かなくてもその声を対策に反映させない！

「被災者・住民の声が聴かれ、その意見が反映されている」との答えはわずかに 3.7%。「聴いても、その意見が反映されない」35.4%。「聴かれもしないし、意見も反映されない」29.7%。

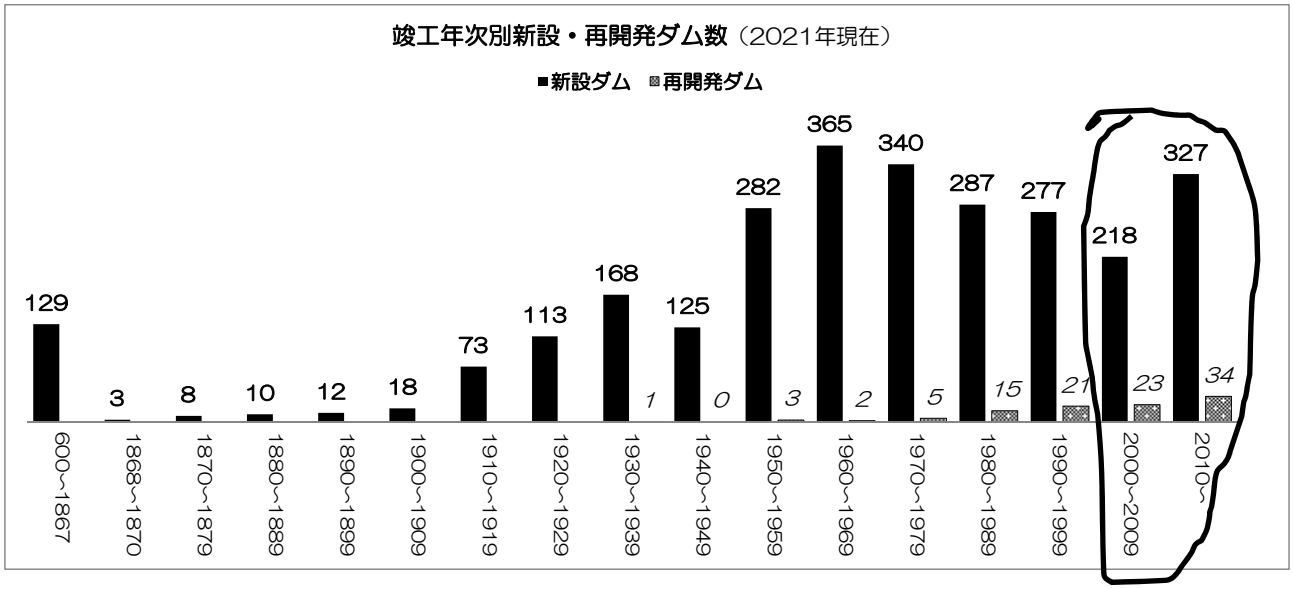


国交省は、今に至るも「始めにダムありき」の頑なな姿勢を崩さない。大規模災害発生のたびに「惨事便乗」的にダムを持ち出してきた（1966 年川辺川ダム建設計画公表。そして 2020 年も）。

蒲島熊本県知事はじめほとんどの関係自治体首長は被災者・住民の声に背を向け、国交省の権力と資金力に屈し、追随するばかり。**誰のための、何のための水害対策なのか！？**

3. 「コンクリートから人へ」もなんのその、造られ、再開発され続けるダム

2009 年「コンクリートから人へ」を掲げた民主党政権が誕生し、2012 年末まで継続したことに伴い、ダム建設は控えられたかに見えるが、国交省はしたたかにダム建設（再開発も）を続けていた。2009 年「中止」とされた川辺川ダム予算も「五木村振興」という形で継続している。2013 年自公政権（第二次安倍内閣）の成立とともに「国土強靭化」（これも**東日本大震災という惨事に便乗**したもの）として、ダム建設は公然とその覆いを取り払った。



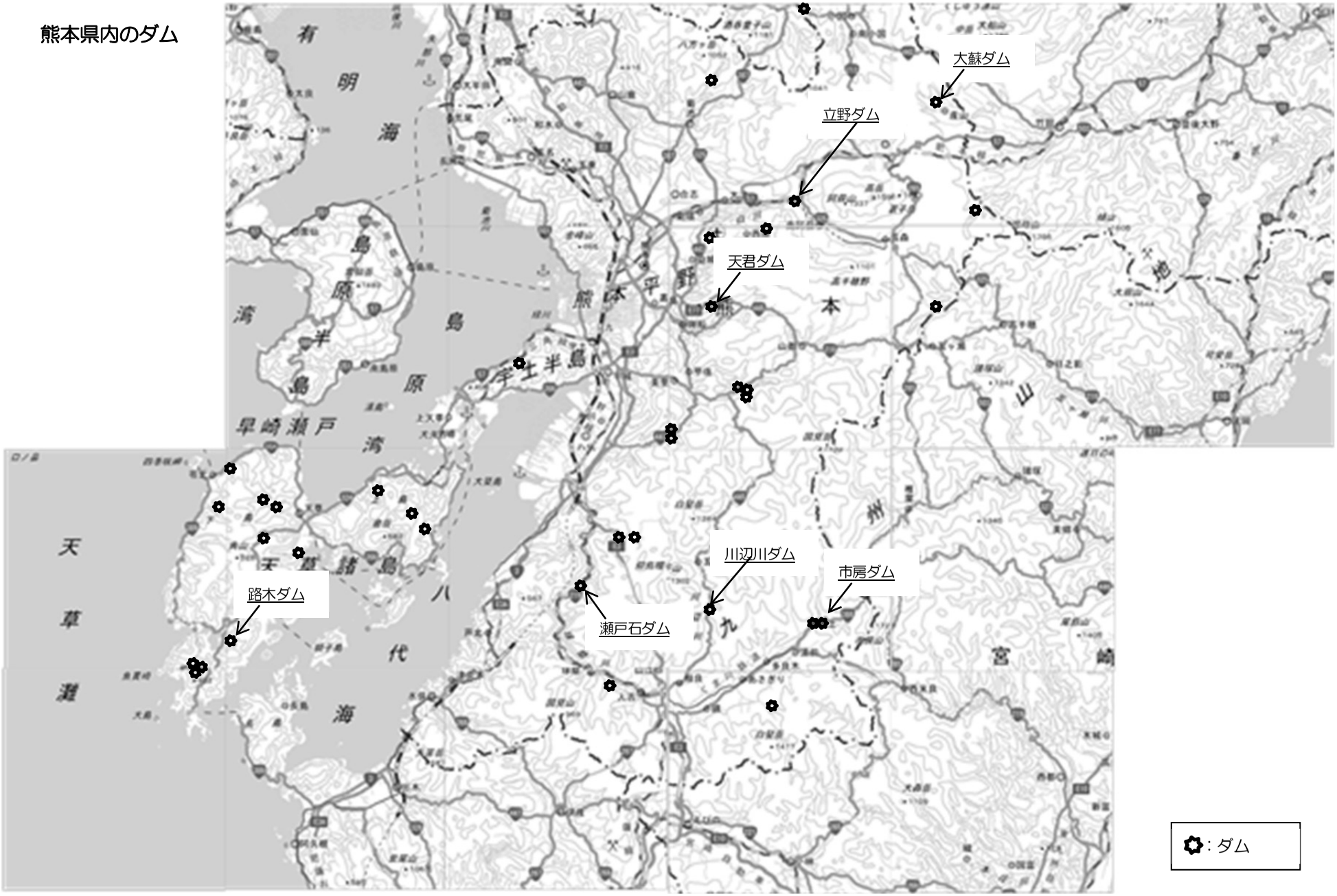
4. 熊本県にも 35（川辺川・立野両ダムを含む）のダム（堤高 15m 以上）が現存する。

35 の内には、

- 別の場所の水害の写真盗用し、間違った資料で人口減少にもかかわらず水需要が増進するというウソをついてまでつくられたもの（路木ダム）。
- 洪水防止ためといって河川改修を怠り、洪水を頻発するもの（天君ダム）。
- 農業用水を貯めるとしながら、水漏れの止まらないザルダム。その修理に多大な税金が追加支出された（大蘇ダム）。
- 一私企業が、僅かな電気を作るために上下流に水害を頻発・増悪させ、膨大な土砂を堆積させ遮断するもの（瀬戸石ダム）。
- 河川改修や遊水地整備で必要がなくなったにもかかわらず、「世界の阿蘇」をぶち壊して造られようとするもの（立野ダム）。
- 日本一の清流川辺川を台無しにし、水害の危険を増大させるもの（川辺川ダム）。
- 「緊急放流」で洪水を増悪させ、堆積したヘドロ入りの水で下流を危険にさらすもの（市房ダム）。

総じて**ダムは水害の危険を増大させ、流れを遮断して川や海の環境を悪化させている。**

熊本県内のダム


大蘇ダム
立野ダム
天君ダム
川辺川ダム
市房ダム
瀬戸石ダム
路木ダム
有明海
島原湾
島原半島
早崎瀬戸
天草諸島
八代海
天草灘
熊本平野
宇土半島
九州山地
宮崎
：ダム

5. 知事が変ればここまで変わる…！？　～県民目線か“御上”追従か～

【熊本県知事】

潮谷義子知事：2000 年、福島氏の死去に伴って熊本県知事に就任し、2000 年の選挙で熊本県知事に。2004 年、熊本県知事に再選。2008 年まで県政を担う。

・2000 年当選・就任直後、川辺川ダム建設に対し、「環境アセスを実施すべき」と発言。

・2001 年、記者会見でダム本体着工に慎重姿勢。川辺川研究会ブックレットＮｏ.4「ダムがなくても治水は可能」（河床掘削と堤防かさ上げ等によるダムなし治水策を提言）等を受け、「国は説明責任を尽くしていない」として住民討論集会を開催（2003 年末までに９回）。

・2002 年、荒瀬ダム撤去を表明。その他、在任中に釈迦院ダム、高浜ダム、姫戸ダムの建設を中止、五木ダム計画の凍結などを行なった。

・2007 年末までの球磨川水系河川整備基本方針に関する小委員会でも、一貫して川辺川ダムへの疑問を呈し続けたが、2008 年、突然、次期知事選挙への不出馬を表明。

※潮谷義子知事の、住民・県民の立場に立った「国は説明責任を尽くしていない」とする姿勢が、国土交通省等が住民・県民への直接的な説明・交渉を余儀なくさせたと考えられる。

蒲島郁夫知事：2008 年、県自民党等の推薦を受け、ダム反対派を下回る 46.7%の得票率で初当選。

・2008 年就任直後、突如として「荒瀬ダム撤去方針」を撤回。県民の圧倒的批判の中 2010 年には「撤回」を撤回。

・2009 年、相良村長、人吉市長の川辺川ダム反対表明を受け、県議会で「宝の川を守る」として川辺川ダム建設を白紙にと表明。その後「ダムに拠らない治水」を「究極まで追求する」として「検討する場」等を設置し継続的に協議。しかし、11 年経っても具体的なダムに拠らない治水対策を内容とする河川整備計画は、何ら具体化せず。

・2020 年、7.4 球磨川水系豪雨災害の発生を受け、極当初は「ダム」に難色を示したかに見えたが、11 月には「流水型の川辺川ダム建設を国に求める」と表明。翌日には国交省に出向き、直接大臣に要請。この決定への**被災者・住民・県民の参加は一切認めず、「意見はお聞きしました」と。**

立野ダムに関しては「建設促進」一辺倒。球磨川水系の「ダムによらない治水…」の検討への住民・県民の参加は認めず、国交省に対し「説明責任を果たせ」などとは一言も発言せず。したがって、国交省は立野ダムはじめ白川水系の治水対策・河川整備、立野ダムに関する**県民への直接の説明・回答は一切拒否。川辺川ダムについても同様。どちらを向いて県政を行なっているのか！？**

2008 年の選挙に際し、蒲島氏は「長すぎてはダメ、２期くらいが適当」としながら、現在４期目。さすがにこれが最後の任期では。そんなときに、穴あきとはいえ川辺川ダム建設を国交省に要請するという、流域住民・県民にとっての**「極めて厄介な置き土産」を残すとは、全く無責任！**

思い起こすのは、仲井眞前々沖縄県知事（2006～2014 年）。

前任者の稲嶺知事は「軍民共用、期限付き」として実質的に辺野古新基地建設開始をけん制。仲井眞知事も当初は同じ姿勢を継続するも、2013 年 11 月末、切り札の「公有水面埋立」を承認した。

安倍首相・菅官房長官は、堰を切ったように工事を開始。ジュゴンの餌場・サンゴの美ら海は無残に埋め立てられ、翁長知事は命を賭して、引き継いだ玉城知事はじめ大多数の沖縄県民は、現在に至るも自公政権による辺野古基地建設反対の厳しい闘いを強いられている。

蒲島郁夫熊本県知事どの、あなたは歴史にどのような名を残されるおつもりですか？

熊本にダムはいりません！

県内外の各ダムの問題点

1. 川辺川ダム　　南由穂美

①昨年の洪水では、川辺川ダムがあってもいのちは守れなかった！

昨年７月４日の球磨川水害では、５０余名の方が亡くなられました。その時間や状況を関係者に聞き取りをした結果、その方たちのほとんどが、球磨川本川の氾濫によるものではなく、支川の洪水や用排水路で亡くなっていたことが明らかとなっています。川辺川ダムがあってもいのちを救うことはでなかったことになります。

②被災者はダムを求めていない

「７・４球磨川流域豪雨災害被災者の会」が行ったアンケート調査（回答総数２４６）によれば、水害対策として望むこととして、流水型ダムを作ると回答した人は 8.1%でした。それに対し、堆積土砂を撤去する、河道を掘削すると答えた人は 40%前後います。また、山林・山を保全するも４０．７％でした。蒲島知事は「民意が変わった」として、１２年前の川辺川ダム白紙撤回宣言を覆しましたが、このアンケートで見る限り、被災者はダムを求めておらず、民意は変わっていません。

③異常気象で緊急放流が怖い！

昨年のような線状降水帯による未曽有の豪雨は、これからもやって来ることがないとは誰にも言えません。このようなときに洪水流量を想定して、ダムを作ることほど危険でムダなことはありません。度々計画流量を超えて緊急放流をしなければなりません。緊急放流による急激な放流量の増加は被害を深刻なものにします。

④ダムに穴さえ開ければ、清流は守れるのか

蒲島知事が進める「流水型ダム」は清流を守れるのでしょうか？アユなどの魚が自由に遡上したり下降できるようになるのでしょうか。専門家や川漁師さんは、川辺川から「尺鮎」はいなくなると指摘しています。また、洪水でダムに貯まった土砂や泥土は短期間では出ていかないので、長期にわたり、川が濁ることが予測されます。

川辺川ダム建設予定地（Wikipedia から）

⑤瀬戸石ダムが洪水被害を大きくした！

昨年１２月に報告された「球磨川流域治水協議会」の資料によれば、流水型ダムを含めあらゆる治水対策を実施した後でも瀬戸石ダム上流区間で、現国道より５ｍほど水位が上昇することが明らかになりました。このことは、瀬戸石ダムを球磨川の治水対策として撤去すべきであることを示しているのではないでしょうか？

2.瀬戸石ダム　　土森　武友

前の文章にもありますように、昨年の水害の大きな問題は瀬戸石ダムの存在です。瀬戸石ダムがあることで、ダムより上流部分では、ダムにせき止められた水でダム湖の水位上昇が起き、しかも大量の水でバックウォーターの範囲が広まりました。ダム下流ではダムからの放流で急激な水の流れの発生と水位上昇が起こったことは疑いようがなく、JR 瀬戸石駅舎が跡形もなく流されています。

水害の原因は大量の水がダム湖に押し寄せたことですが、その被害を拡大させた要因はダム湖の堆砂です。ダムが出来る前に比べて、球磨川の水面は 4 メートルから 10 メートル近く上がったという住民の証言もあります。瀬戸石ダムを管理運営する電源開発（株）が溜まった土砂の撤去をまともに行っていさえすれば被害は軽減できたかもしれません。そういう意味では、土砂撤去をサボタージュしてきた電源開発とそのサボタージュを許してきた国交省の責任も厳しく問われなければいけません。

３．天君ダム　　須藤　光夫

熊本県営の防災ダムとして御船町の緑川水系支流矢形川に１９５７年（昭和 32 年 7 月 25 日）の雨量を基に防災を目的として計画され 19７０年（昭和４５年度）に完成しました（堤高３９ｍ　堤長１９５ｍの重力式ダム）。ところが完成間もなく大雨になりダムの能力を過信して貯水をはじめたため、上から越しそうになってゲートを開けました。それで下流では甚大な被害が出ました。その後も幾度かの洪水になり農業をはじめ被害が続きその都度護岸の補修も続いてきました。

大雨が降ればその後、長時間放水が続くため水位が下がらず下流の農地では農作物の被害が発生し内水問題が起きています。数拾年の間にダムには多量の土砂が溜まりましたが管理のバルブの操作は完成時の貯水量のままが続きましたので現状との違いが出たことも想定されます。最近では平常濁った溜水を一定量放水するため、河川敷に雑草や立木が生い茂りイノシシなどの住家となり農業などの被害が続いています。

一方渇水期に溜まっている水の放水を頼んでも聞き入れません。このような状況のため、下流では災害ダムと呼んでいます。

ダム便覧から

４．立野ダム　　福田芙美子

世界の阿蘇の入り口立野に建設が進む立野ダムは、穴あきダムで流木や土砂で穴が詰まり、溢れた洪水が下流を襲う危険なダムです。

異常気象のもとで、熊本市のハザードマップでは市内の多くのところが 5m から 10m浸水することになっており、わずか 40ｃｍの効果しかない立野ダムは何の役にもたちません。

立野ダムは中止し、堤防かさ上げ、土砂の浚渫掘削、遊水地・田んぼダムを整備すればダム以上の中止効果があり、立野ダム建設費用１１６０億円はムダづかいです。

「立野ダムによらない自然と生活を守る会」を中心にとりくまれてきた立野ダム中止署名は、累計１５，５００人です。そのうち、「異常気象による水害多発時代に、安全な白川を求める署名」は短期間に５０００人を超えました。

粘り強く署名活動を進め、国交省・熊本県にダム中止を求めていきたいと思います。川辺川ダム・瀬戸石ダム撤去の闘いと連帯し頑張る決意です。

国交省 立野ダム工事事務所 Twitter から

５．路木ダム　　中島　康

「守るべき宝は、球磨川そのものである」との名言を述べた蒲島知事が、白川の上流の立野ダムは着工し、嘘のみの建設理由で天草に「路木ダム」を反対の声を無視して建設しました。宝の川と、そうではない川とは何でしょうか。

路木ダムは、路木川上流の山林原野を開墾し農地造成しました。その結果造成地、道路その他いたるところで土砂崩れが起こり、流域の農地に被害が発生したため、地元農民から路木川上流に砂防ダム設置の嘆願書が、熊本ため県に提出され、路木ダム計画が動きだしたのです。

その頃、天草地方特に牛深地区は深刻な水不足に悩まされていました。そのため、路木ダム計画を熊本県は１９９３年、砂防ダムから多目的ダムに変更したため、ダム計画を作るための実例探しの過程で、とんでもないでっち上げが出現し、破廉恥なダム計画が始まるのです。ではなぜこの様なことになったのでしょうか。

いずれにしてもダムを前提とするからには基本高水流量を決めなければなりません。要は被害の出た水害とその記録が必要なのです。その記録がなければ、それを何とかしなければならなかったのが、路木ダム建設計画策定の時の現実だったのです。次に多目的ダムのため、には路木ダムの利水目こり、流域の農地に被害が発生したため、地元農民から路木川上流に砂防ダム設置の嘆的の内容も必要です。天草では１９６０ 年代の水不足の後、直

ぐにヤイラギダムの拡張工事を急ぎ完成させています。またそれに加えて八久保ダムという全く使われていない大きなダムがあります。
１９６０年代の水不足以後、牛深地区と河浦地区では水不足現象は聞いていません。現在人口が減少の一途を辿っている両地区で、水の消費量が増加することはありません。「昭和５７年７月集中豪雨記録」にも路木地区の洪水による氾濫、浸水被害の記録はありません。過去においてもまた将来も、起こることは絶対にないのです。このことについて天草市はコメント無し、熊本県は「現地がそのように言っているからそうであると信じています」とのことです。利水理由も、治水理由も破綻しており、市民への騙しの構造の上に作られたのが天草の河浦の路木ダムなのです。

6.石木ダム　　土森　武友

長崎県東彼杵郡川棚町川原地区に長崎県が計画する治水、利水を目的とするダムです。１９６２年の調査・測量以来、水没予定地に暮らす住民を始めとして根強い反対運動が起こり、今も続いています。治水目的については、ダムが無くても河川改修をすれば過去最大の洪水を溢れさせずに流せることを県知事も認めています。事実、今年８月中旬の豪雨時には県の想定雨量の６割ほどの雨が降っていますが、計算すると川棚川の水位は 3.1.メートルと推測され、安全に流せる水位 5.8 メートルまでまだまだ余裕がありますので、県の想定雨量が降っても溢れずに安全に流せることが推測できます。

また、佐世保市に水道水を供給するという利水目的も佐世保市の人口減少などで水需要は減ってきており、目的は破綻しております。このような無駄なダム建設に、総事業費 538 億円（関連事業費含む）もの税金を投入し、川辺川以上に豊かと言われる川原地区の貴重な自然を破壊し、住民を強制的に追い出して、ダム建設を強行することなど許される訳がありません。今まさに、長崎県民自身が立ち上がって県知事に中止を求める時が来ています。

抵抗する住民・支援者ら（山下良典氏撮影）

お集りの皆さんこんにちは。ご紹介いただきました芦北町議会議員の坂本登です。

本日は瀬戸石ダムの存在が不知火海の自然環境に与えた影響について

芦北町の２人の海の漁師さんの声を紹介します。

一人目は田浦の漁師さんの声を紹介します。お聞きください。

瀬戸石ダムがもたらす環境破壊は漁民にとって深刻な問題を引き起こしています。ダム湖の中にたまった堆積土砂はヘドロ化し、ダム湖の水質を悪化させ必要以上の不栄養化をもたらしています。これが海洋に流れだし赤潮などの海洋汚染を発生している原因と思われます。また、河口沿岸に供給される土砂の量も少なくなり、干潟の環境破壊を起こしています。アマ藻の発生生育も阻害され稚魚の成育場所がなくなってしまっています。このようなことから漁業者にとって深刻な漁業不振をもたらしています。

私の家計も２００年以上漁業を生業としてきました。私も親から引き継ぎ５０年間漁師を行っています。５０年前の漁獲量に比較すれば現在の漁獲量は５分の１に減少しています。

このような状況が続けば漁民の姿は不知火海から消えてしまいます。わたしは、子供と孫の末代まで宝の海を守っていきたい。魚の産卵場所であり成育場所でもある球磨川は不知火海にとって母なる川です。母がやんでいれば子どもは育ちません。また、ダム湖の堆積土砂を下流に流すという事を耳にしたが、ヘドロ化した堆積土砂を下流に流すなどは言語道断冗談じゃないと言いたい、海の漁師の意見を聴けばだれでも知っていること。ダムが撤去されれば最初はヘドロが流れ出しても数年たてば流下を繰り返し自然環境は回復すると思う。今回言いたいことはダムを撤去して

くれと言っているんじゃない。国は川辺川ダムを作ることに熱心だが、ダムが水害や環境に与えた影響を検証するべきと言っているんです。検証なしに新たにダムを建設するなど言語道断という声です。

二人目の方は計石の漁師さんの声です。お聞きください。

海は雨が降ることによって山からの栄養分が川を伝って海に流れるのが自然の摂理です。しかし、球磨川にある現在は撤去されているが荒瀬ダムと今もある瀬戸石ダムの影響で、６０数年の歳月をかけて河口周変の干潟は失われ、手長タコ、シャコ、小エビなどが獲れなくなった。河川の流れをさえぎるダムがあることにより長い年月をかけて自然環境を変えてしまった。わかりやすく言えば人間の血液で考えたら誰にでもわかるでしょう。血管の流れが悪くなれば体調を崩し最悪の場合死んでしまう事もあるでしょう。国はダムが災害に与える影響と自然環境に与える影響を明らかにしてほしい。それなしに新たなダムを造るなど到底納得できない。という声です。

本日ここにお集まりの皆さん

この２人の漁師さんは名前も出していいといわれれるほど真剣な要求です。

この人たちの声は芦北町のすべての漁師さんたちの本音であり海を愛する人すべての思いです。

問題提起する相手が１級河川の管理者である国交省であるため、勇気のいることと思います。しかし７月豪雨で人命が失われ瀬戸石ダム周辺は上流、下流とも甚大な

被害が出ました。5月２５日、国交省は私と瀬戸石ダムを撤去する会の土森さんとの交渉の中で瀬戸石ダムが球磨川にある構造物である以上、７月豪雨時に影響がなかったとは考えていない。現に定期検査で堆積土砂により洪水の恐れありとし指摘し、堆積土砂を撤去するように毎年強く指導してきたところです。と国交省職員の専門官が回答しています。

大事なことはダムがなかったらどうなっていたのかという検証とダムが建設されて６０年間という長い年月をかけて下流や河口にどんな自然環境の変化をもたらしたのか。今回私に勇気を出して声を託してくれた２人の漁師さんの切実な思いを真剣に受け止めダムありきでなく国交省や環境省に対し、皆さん方の力を借りて国に強く要求していきましょう。

私は、ダムありきの電源開発及び国の姿勢じゃなく、瀬戸石ダム問題はダムがなかった場合を含めて水害と自然環境に与えた影響の検証をすることを言っているのです。検証すればダムがないほうがいいという結果になることは明らかです。ものをいう相手が大企業と国になりますが、皆さんと共に頑張ります。共に頑張りましょう。

本日は発言の機会をいただきありがとうございました。